

ニッセイ インターネットアンケート ～「バレンタインデー」について～

日本生命保険相互会社（社長：清水博）は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューの一つとして、ホームページ（<https://www.nissay.co.jp>）内の「ご契約者さま専用サービス」にて、「バレンタインデー」に関するアンケート調査を実施しました。

《アンケート概要》

- 実施期間：2024年1月4日(木)～1月16日(火)
- 実施方法：インターネットアンケート（「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニュー）
- 回答者数：18,877名（男性：9,574名、女性：9,029名、無回答：274名）

＜年代別回答者数＞

[名]

年代							合計
	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
男性	351	880	1,415	3,156	2,724	1,048	9,574
女性	584	1,282	1,588	2,926	1,946	703	9,029
合計	935	2,162	3,003	6,082	4,670	1,751	
占率	5.0%	11.5%	15.9%	32.2%	24.7%	9.3%	

《アンケート結果のポイント》

ポイント①

質問 1～3

【バレンタインデーにおけるプレゼントについて】

- 今年のバレンタインデーに「プレゼントを渡す予定」と回答した方の割合は、昨年と比べて男女ともに上昇し、全体としては37.6%となった。
- 「自分自身にプレゼントを渡す」と回答した方が13.2%と、一昨年および昨年と比べて上昇。一方、「職場の人」と回答した方は14.7%と低下した。
- 職場の人や仕事関係者へのプレゼントについて、72.1%の方が「(どちらかといえば)必要でない」と回答した。

ポイント②

質問 4～6

【プレゼントの金額について】

- 今年のバレンタインデーに「配偶者・パートナー等へ渡すプレゼント」の平均金額は3,238円。
- 「自分自身へのプレゼント」の平均金額は4,265円。昨年(2,527円)から大きく増加した。
- 今年のホワイトデーに「配偶者・パートナー等から希望するプレゼント」の平均金額は3,472円。
- バレンタインデーに渡すプレゼントの平均金額と、ホワイトデーに希望するプレゼントの平均金額がほぼ同額だった。

ポイント③

質問 7～8

【物価上昇の影響】

- 約8割の方が「プレゼントの予算や渡す人数は変わらない」と回答した。

【バレンタインデーにおけるプレゼントについて】

<アンケート結果のポイント>

- 今年のバレンタインデーに「プレゼントを渡す予定」と回答した方の割合は、昨年と比べて男女ともに上昇し、全体としては37.6%となった。
- バレンタインデーに「プレゼントを渡す」と回答した方の割合が最も高かった都道府県は宮崎県となった。
- 「自分自身にプレゼントを渡す」と回答した方が13.2%と、一昨年および昨年と比べて上昇。一方、「職場の人」と回答した方は14.7%と低下した。
- 職場の人や仕事関係者へのプレゼントについて、72.1%の方が「(どちらかといえば) 必要でない」と回答した。

質問1 今年のバレンタインデーにプレゼントを渡しますか？ (回答者数：18,877名)

		(%)		
		今年	昨年	一昨年
全体		37.6	34.5	36.1
	男性	14.5	10.3	13.0
	女性	62.3	59.8	59.2

「はい」と回答した割合は男女ともに上昇

■ 渡すと回答した方が多かった都道府県ランキング (海外含)

(%)			(%)		
順位	都道府県	占率	順位	都道府県	占率
1位	宮崎県	54.3	39位	群馬県	34.2
2位	岩手県	50.6	40位	茨城県	34.0
3位	福井県	49.0	41位	高知県	33.8
4位	大分県	47.3	42位	山梨県	33.0
5位	島根県	45.6		和歌山県	33.0
6位	岡山県	44.2	44位	千葉県	32.7
7位	福島県	43.2		岐阜県	32.7
8位	熊本県	43.2	46位	鳥取県	31.0
9位	徳島県	43.0	47位	山口県	30.9
10位	海外	42.9	48位	宮城県	30.2

質問2 <質問1で「渡す」を選択した方への質問>

今年は誰にプレゼントを渡しますか？ (回答者数：7,480名) ※複数回答可

		(%)		
		今年	昨年	一昨年
配偶者・パートナー	66.2	64.1	63.4	
子	29.4	27.8	29.5	
親	13.4	15.6	17.8	
兄弟・姉妹	5.0	5.2	5.7	
その他の親族	6.8	6.0	8.2	
恋人	4.2	5.0	6.0	
好意をいだいている人	1.6	1.8	2.0	
職場の人 (上司、同僚、部下)	14.1	14.7	17.3	
職場以外の仕事関係者	1.7	1.9	2.7	
友人	8.2	8.3	7.7	
お世話になっている人	8.4	7.8	8.3	
芸能人・アイドル	0.2	0.2	0.2	
自分自身	13.2	12.2	7.5	
その他	3.3	3.3	1.4	

「配偶者・パートナー」、
「自分自身」は上昇傾向
「職場の人」は低下傾向

質問3 職場の人や職場以外の仕事関係者へのプレゼントを渡すことについてどう思いますか？

(回答者数：18,877名) ※複数回答可

(%)

	全体	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
必要だと思う	7.2	12.0	7.2	6.9	6.8	6.4	8.7
どちらかといえば必要だと思う	20.7	24.8	20.2	20.5	20.8	20.0	21.1
どちらかといえば必要ではないと思う	30.2	27.8	29.4	30.2	30.2	32.0	27.5
必要ではないと思う	41.9	35.4	43.2	42.4	42.2	41.7	42.7

「(どちらかといえば)必要でない」が約7割

<ニッセイ基礎研究所 生活研究部 上席研究員 久我尚子くが なおこのコメント>



コロナ禍が明けて外出行動が活発化しているためか、今年はバレンタインのプレゼントを渡す人がやや増えています。ただし、プレゼントを渡す相手は、「配偶者・パートナー」や「自分自身」では増加傾向が続く一方、「職場の人（上司、同僚、部下）」では減少傾向が続いています。コロナ禍を経てテレワークを併用した働き方が浸透する中で、義理チョコ文化がますます衰退し、本命チョコやご褒美チョコを優先する傾向が強まっているのでしょう。

また、仕事関係者へのプレゼントを不要と考える割合は7割を超え、特に、就業者の多い30～60代で高い傾向があります。近年、働き方やデジタル化の進展などによって価値観が変容する中で、年賀状やお歳暮・お中元なども簡略化されています。バレンタインも、特に仕事関係者に対しては、同様に簡略化の流れにあるのでしょう。

【プレゼントの金額について】

<アンケート結果のポイント>

- 今年のバレンタインデーに「配偶者・パートナー等へ渡すプレゼント」の平均金額は3,238円。
- 「自分自身へのプレゼント」の平均金額は4,265円。昨年（2,527円）から大きく増加した。
- 今年のホワイトデーに「配偶者・パートナー等から希望するプレゼント」の平均金額は3,472円。
- バレンタインデーに渡すプレゼントの平均金額と、ホワイトデーに希望するプレゼントの平均金額はほぼ同額だった。

質問4 バレンタインデーに渡すプレゼントの金額をいくらで考えていますか？ (回答者数：6,417名)

質問5 「自分自身へのプレゼントの金額」をいくらで考えていますか？ (回答者数：2,928名)

質問6 ホワイトデーのプレゼントの金額はいくらを希望しますか？ (回答者数：6,161名)

「バレンタインデー」に渡すプレゼントの金額

「ホワイトデー」に希望する
プレゼントの金額

	配偶者や パートナー等へ	(%) 自分自身へ	(%) 配偶者や パートナー等から
1,000円未満	29.0	39.6	31.5
1,000円～2,000円未満	31.2	23.0	27.8
2,000円～4,000円未満	21.8	15.1	20.4
4,000円～10,000円未満	14.2	15.1	15.4
10,000円～30,000円未満	2.7	5.2	3.7
30,000円以上	0.9	2.0	1.2
平均値	3,238	4,265	3,472
平均値 (昨年)	3,324	2,527	3,819

「4,000円以上」
が2割以上

【物価上昇の影響】

<アンケート結果のポイント>

○ 約8割の方がプレゼントの予算や渡す人数は変わらないと回答した。

質問7 物価の上昇は「プレゼントの予算」に影響しますか？ (回答者数：18,877名)

質問8 物価の上昇は「プレゼントを渡す人数」に影響しますか？ (回答者数：18,877名)

	予算	人数
昨年より増やす	5.0	2.3
変わらない	78.9	81.4
昨年より減らす	16.1	16.3

約8割が「変わらない」

<ニッセイ基礎研究所 生活研究部 上席研究員 久我尚子くがなおこのコメント>

物価高で家計の負担感が増す中でも、8割はバレンタインの予算や渡す人数は変わらないと回答しています。食料や日用品などの日常的な出費は節約しても、1年に1回の非日常的な出費には例年通りの予算を充てても良いと考える方が多いの
でしょう。

ただし、配偶者やパートナーへ渡すプレゼント金額は微減する一方、自分への金額は増えています。商品の価格が上が
り、例年と同じ予算では買えるチョコの量や質が低下してしまう可能性がある中で、自分へのご褒美チョコなどには一層
こだわりたいと考える方が増えているのかもしれない。

なお、バレンタインデーに渡す金額とホワイトデーに希望する金額はほぼ同額でしたので、お返しを考える際に参考に
されてはいかがでしょうか。

以上

2023-3721G, 広報部